



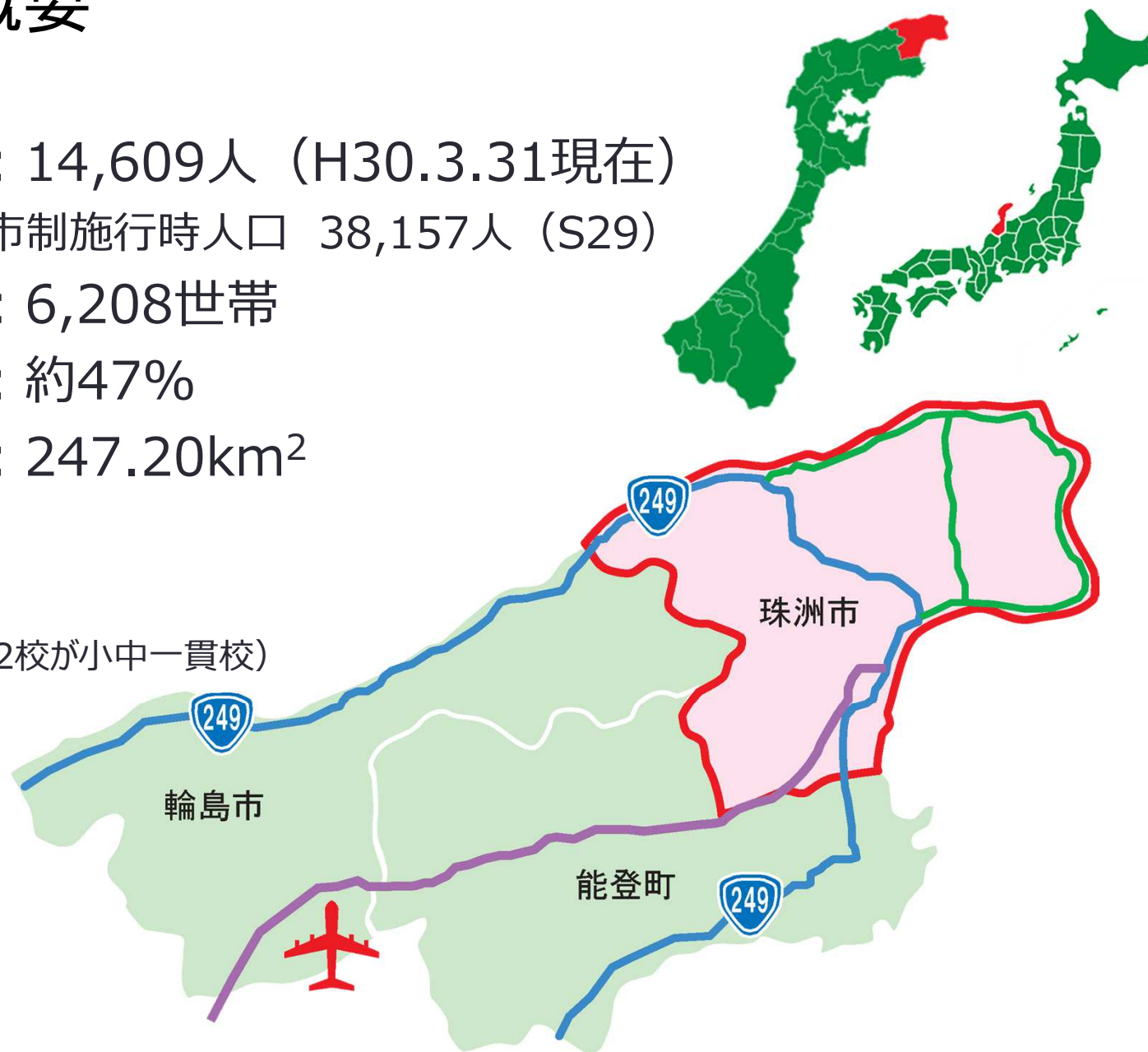
能登半島の先端にレジリエントな 「知」と「共創」のSDGsプラットフォームづくり

石川県珠洲市



珠洲市の概要

- 人口：14,609人（H30.3.31現在）
（参考）市制施行時人口 38,157人（S29）
- 世帯数：6,208世帯
- 高齢化率：約47%
- 面積：247.20km²
- 保育所：9
- 小学校：9
- 中学校：4（うち2校が小中一貫校）
- 高等学校：1
- 図書館：1
- 公民館：10



2030年にあるべき姿

- 人口減少に歯止めをかけ11,600人（2030年）を維持
- 若年層（20～30代）の人口に占める割合を16%に増やす
（2018.3.1現在での若年層割合は12.5%）
- 「珠洲の里山里海まるごと6次産業化」や再生可能エネルギーの利用を通じて地域循環共生圏の構築を目指す



- 自動運転技術が福祉に活かされ、先端アートが生活に溢れるスマートシティを目指す



- 市民一人一人が里山里海で生き生きと暮らせる“生涯活躍できるまち”とし、「日本一幸せを感じられる珠洲市」を目指す

空き校舎を活用した様々な取り組みがスタート



金沢大学、県立大学、奥能登2市2町で結んだ「地域づくり連携協定」(2007)



地産地消にこだわる里山里海食堂「へんざいもん」オープン(2007)

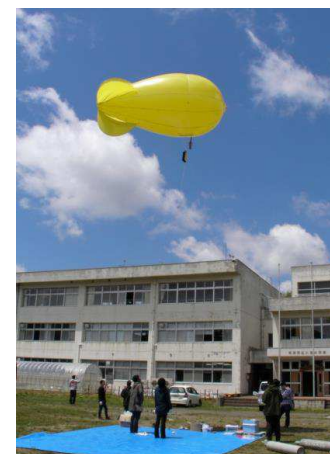
保全活動や環境教育を実施するNPO法人「能登半島おらっちゃんの里山里海」設立(2008)



旧小泊小学校に開校した「能登半島里山里海自然学校」(2006)



「能登里山マイスター」養成プログラム開講(2007)



黄砂研究「大気観測・能登スーパーサイト」スタート(2008)

2007～2011 能登里山マスター養成プログラム

2012～2015 能登里山里海マスター育成プログラム

2016～ 第2期 能登里山里海マスター育成プログラム

● 2006年 能登学舎の開設



● 常駐5人、非常勤1人スタッフ配置

寄附研究部門教員		地域連携推進センター連携研究員			
					
北村健二 (Ph.D.) 人文地理学	伊藤浩二 (農学博士) 植物生態学	淑瑠ラフマン (文学博士) 民族音楽学	嘉瀬井恵子 (社会デザイン 学博士) 社会デザイン	岸岡智也 (農学博士) 農村計画、獣害	小山明子 (動物学修士) 自然保護、国際

スタッフのミッション

- ① 里山里海の価値を再評価
- ② 能登におけるSDGs の推進
- ③ 世界農業遺産グローバル連携
- ④ 起業エコシステムの構築

能登が求める里山里海マイスター人材

養成対象者

受講料 年間2万円

能登の再活性化を担う
45歳以下の次世代リーダー

能登に定住し、自然
や文化を学びたい

能登の自然・文化を活かした
暮らしを実践したい人

里山里海について
より良く理解したい

大学と共に里山里海を研究し、
保全・活用法を探りたい人

里山里海を仕事に
活かしたい

里山里海の価値を発見し、
ビジネスに活かしたい人

講義・実習 & 卒業課題研究

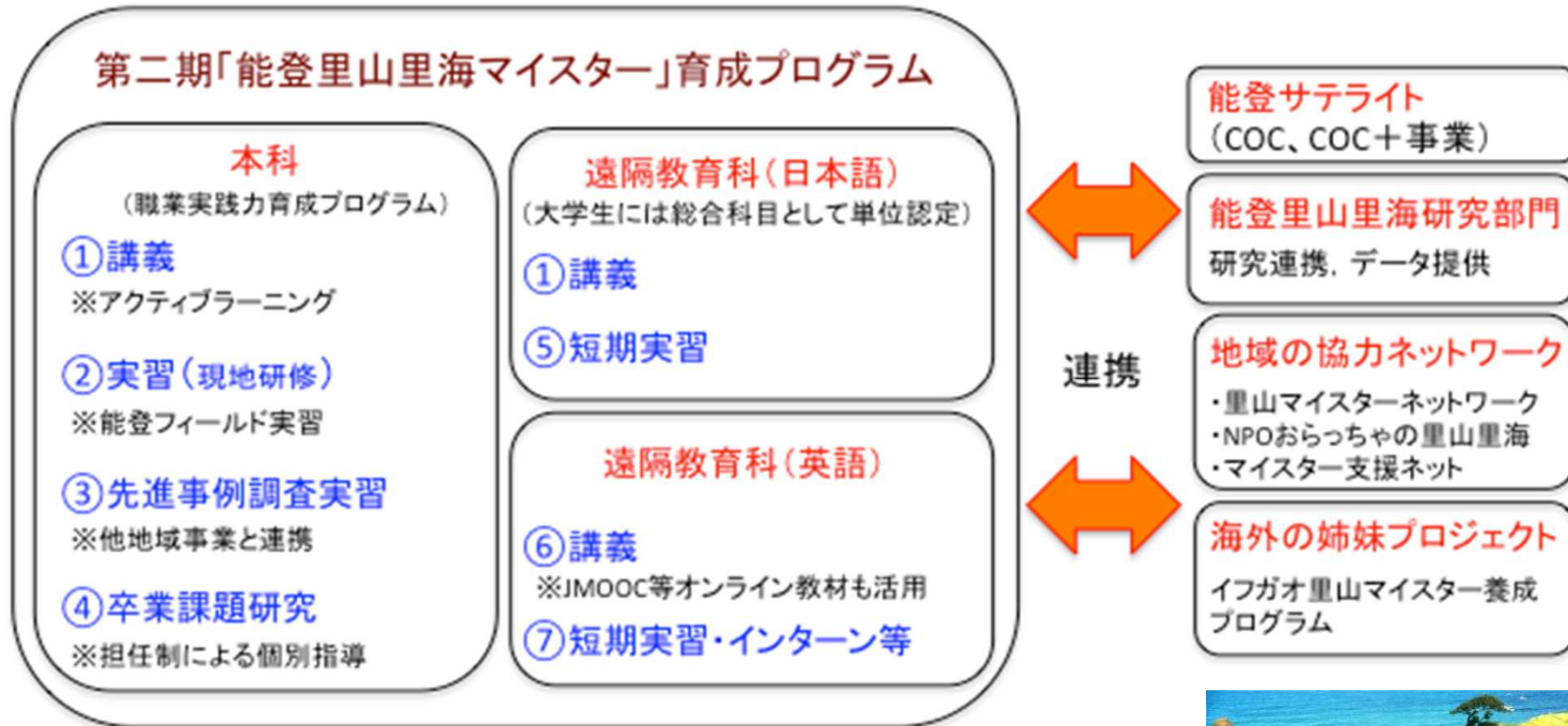
「里山里海マイスター」に認定



「職業実践力育成プログラム」
(BP)として文部科学大臣が認定

里山里海の価値を活かし、地域課題に取り組む人材
自然と共生する「能登の社会モデル」を発信する人材

「里山里海マイスター」育成プログラム



イフガオの受講生は毎年秋に能登で研修

社会人からの学び直しにより能登の再活性化を担う次世代のリーダーを育成

これまでの取り組みが大きく評価



2015年「第3回プラチナ大賞」(主催:プラチナ構想ネットワーク)に珠洲市が応募した「能登半島最先端の過疎地域イノベーション~真の大学連携が過疎地を変える!~」が最高賞の大賞と総務大臣賞を獲得

※プラチナ大賞とは

少子高齢化やエネルギー問題など先例のない先進国ならではの課題を、イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などで解決している自治体や企業の取り組みを評価する民間団体「プラチナ構想ネットワーク」が2013年度から毎年実施している表彰制度

2018年「第7回地域産業支援プログラム表彰事業(イノベーションネットアワード2018)」文部科学大臣賞を金沢大学が受賞

奥能登国際芸術祭2017を契機とした地域の活性化



「三側面をつなぐ統合的取組（補助対象事業の概要）」

●能登半島の先端にレジリエントな「知」と「共創」のSDGsプラットフォームづくり

11年間かけて築かれた「知」の拠点

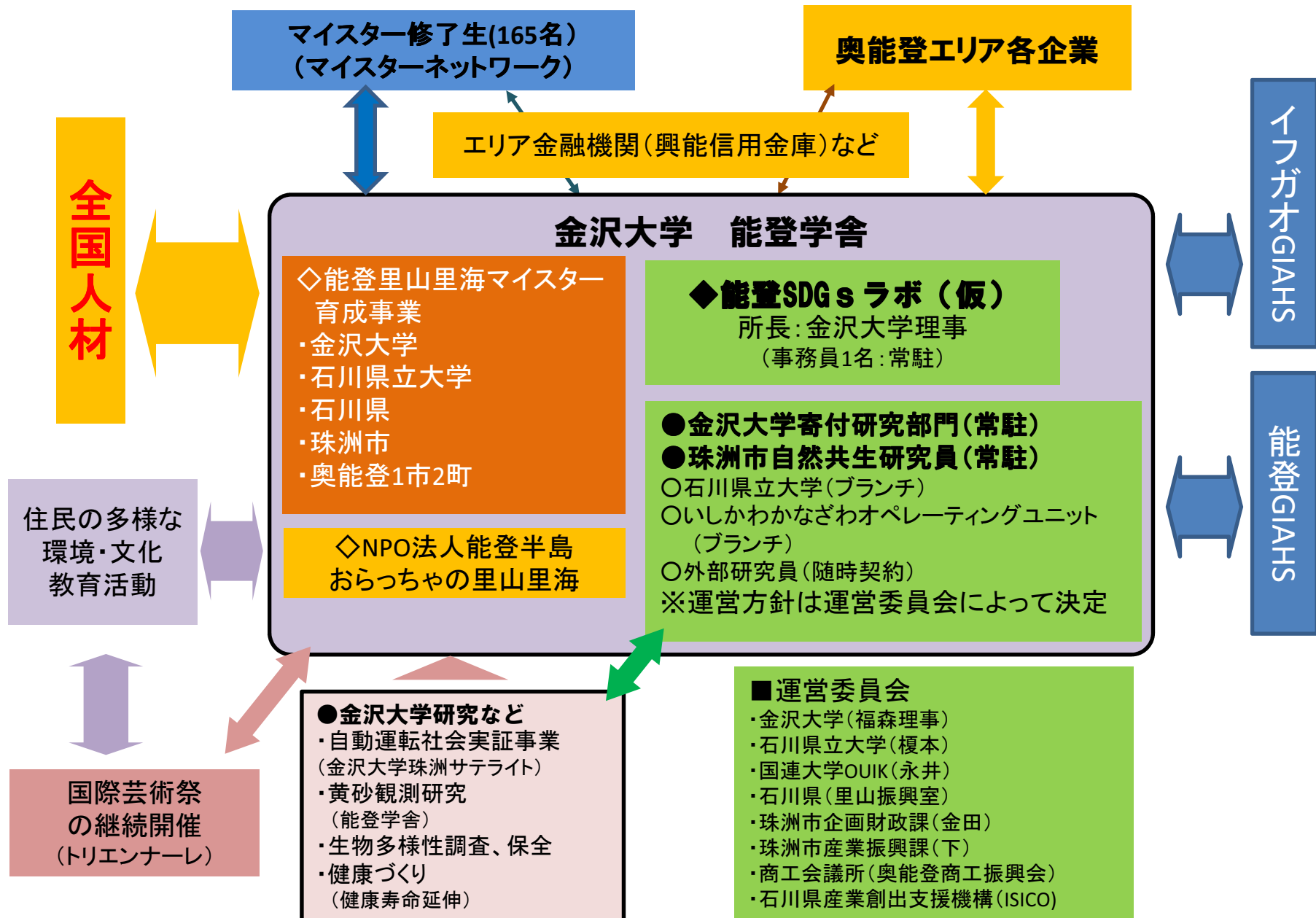


「能登SDGsラボ(仮)」を設置し、地域経済界に対するプラットフォームへ

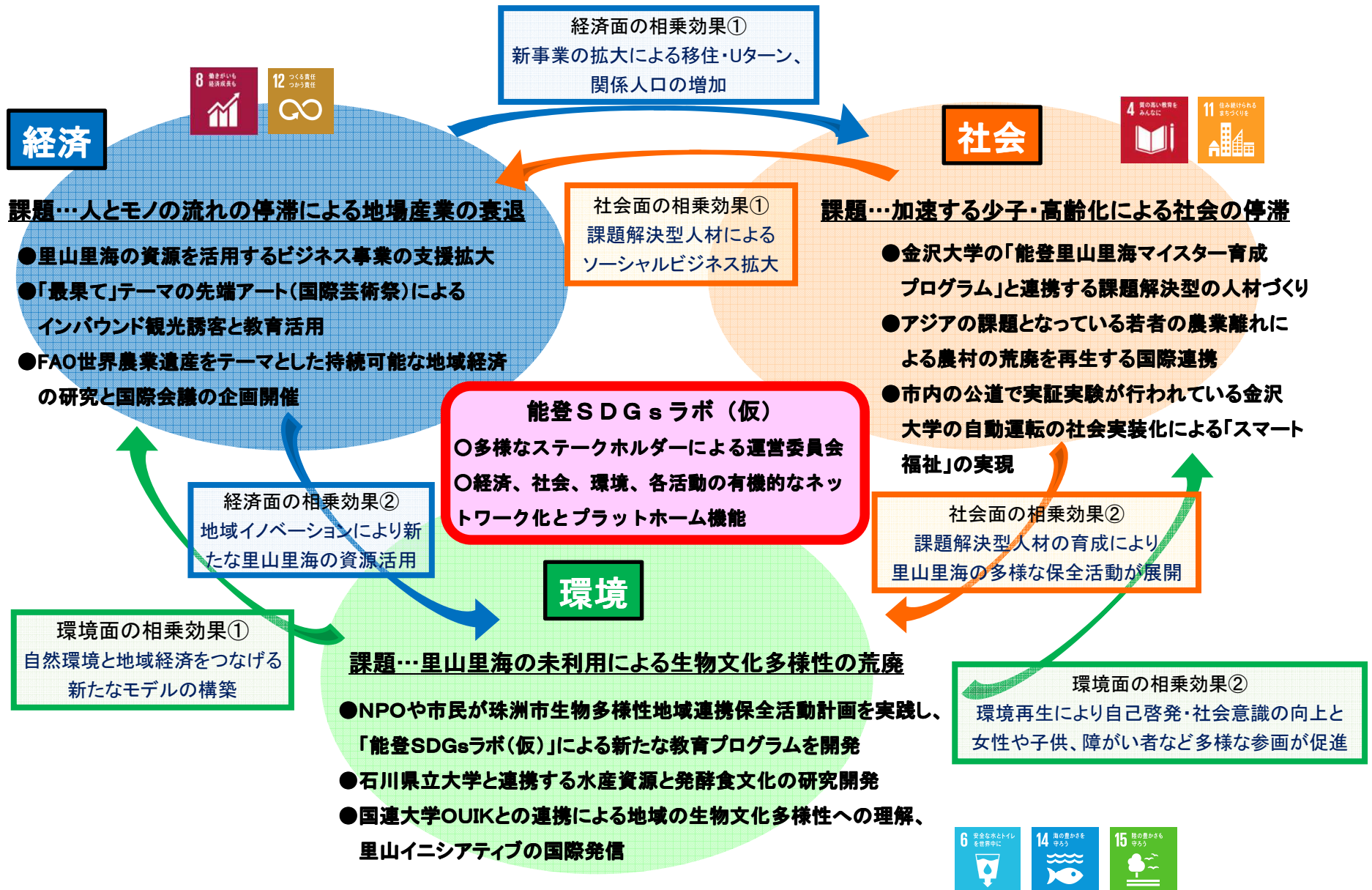
(事業費) 2018年度 5,000千円(珠洲市1/2、交付金1/2)

2019年度以降 10,000千円(珠洲市1/2、ステークホルダー1/2)

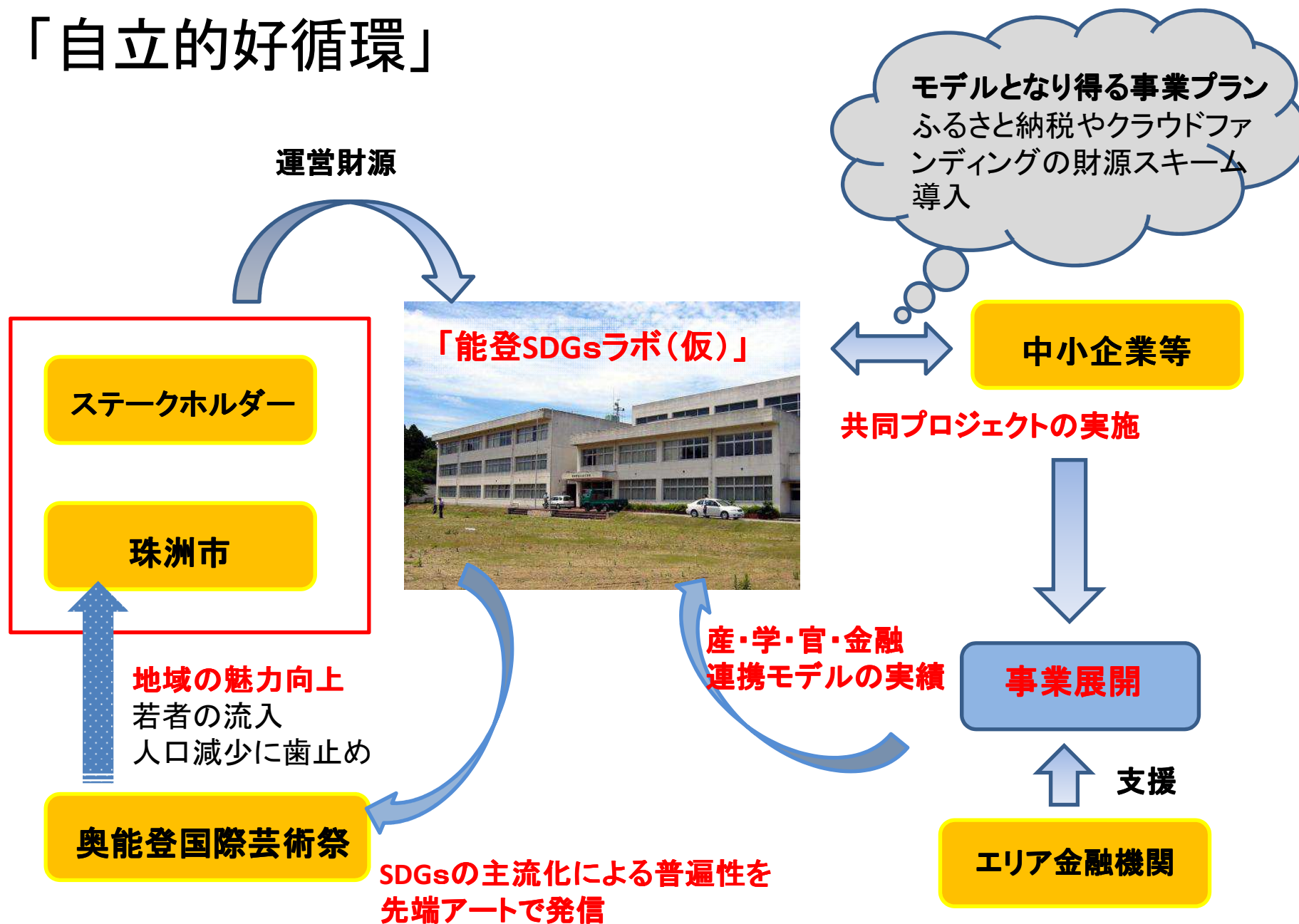
◆能登SDGsラボ(仮)イメージ



「三側面の代表的な相乗効果」



「自立的好循環」



「自治体SDGsモデル事業の普及展開性」

域学連携に取り組む全国の自治体

「能登SDGsラボ(仮)」を設置運営
地域経済や過疎地域対策の実証事例提供

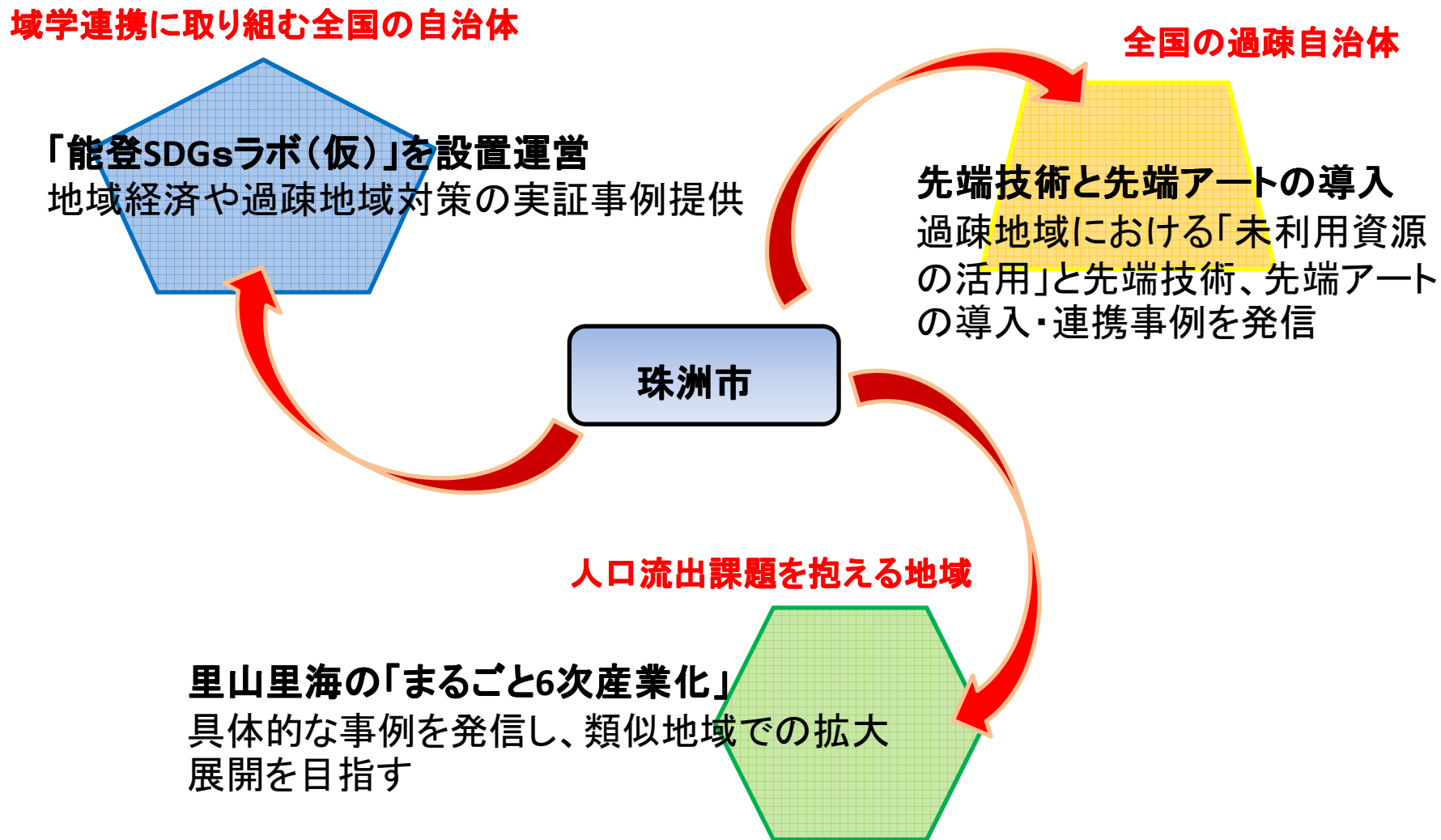
全国の過疎自治体

先端技術と先端アートの導入
過疎地域における「未利用資源
の活用」と先端技術、先端アートの
導入・連携事例を発信

珠洲市

人口流出課題を抱える地域

里山里海の「まるごと6次産業化」
具体的な事例を発信し、類似地域での拡大
展開を目指す



「一人一人がイノベーションの担い手」を目指して

